

く別の仕事をする同僚もいました。

先生に推薦状を書いてもらう場合なども、夏休み前に頼んでおかないと、連絡がとれなくなって困ることになります。

生徒たちも同じことで、夏休みの間は、物理的にも、気持ちの上でも、学校から離れた生活を送ります。前の学年の教室とはお別れし、新しい教室は決まっていないので、学校の中にいる場所はありません。

小学校の算数などでは、夏休み前に学習したことを子どもたちが忘れてしまうのが大きな問題です。そこで、算数の教科書は、前に学習したことを思い出させることから始める編集になっています。始めのところを見ただけでは何年生の教科書かわからなかったりします。

それを避けるためもあって、長い休みを夏にまとめてとるのではなく、年間に少しずつ分けてとるような試みも行われていますが、長い間にできあがった一年間の生活のリズムがあるので、なかなか定着は難しいようです。

◆ 夏休みの意味

子どもたちの学力を高めるために夏休みを短くして授業を増やそうという考え方があります。テストの点数を上げるためだけならよいかもしれませんが、それがほんとうに賢い人を育てることになるかという点、大いに疑問です。

同年齢の子どもたちが集団で生活し、学習する学校のシステムは、ある意味で効果的ではありますが、そのような場では学べないこともたくさんあります。学校の授業を休んで子どもに違う体験をさせることは、たいへん重要なことです。

集団から離れて、ひとりで好きなことに没頭できる時間は、学校ではなかなか作ることができません。いくら集中して何かに取り組んでいても、決められた時間になればやめなければなりません。一人ひとりの生徒が自らの問題意識をもって、それぞれのやりかたで追求することを期待しても、日頃の授業の中では制約が多すぎます。一日の時間の使い方を自分で管理する力をつけることも大切ですが、学校では毎日同じスケジュールにしたがって生活しなければなりません。

アメリカのように、学校から離れた夏休みを過ごすことは、体験の幅を広げるためにはむしろ好都合かもしれません。サマーキャンプやスポーツの活動に参加すれば、違う年齢の子ども



たちと交わることもできますし、おじいさん、おばあさんを訪ねて違う土地の生活を体験するのもよいことでしょう。家族で旅行をすることができれば、その記憶は、みんなにとって一生の宝となります。

◆ 大人の夏休み

大人にとっても、夏休みは大切な時間です。親の立場で言えば、子どもと一緒にまとまった時間を過ごして成長を確認することができるときですし、時間の過ごし方、過ごさせ方を考えることで、改めて次の世代に何を伝えたいのかを意識させられたりもします。

教員は、いつも同じ場所で、毎日同じようなことを繰り返す生活なので、目の前のことに追われて視野が狭くなりがちです。最近、日本の学校では、先生たちの指導力を高めようとして、夏休み中にも教育委員会などいろいろな研修会を行って参加させたりすることが多くなっているようですが、先生たちが自由に行動できる時間を減らすことは、かえって彼らの成長を妨げる結果になりはしないかと危惧されます。

個人として生きる力をつけるためにも、社会に貢献できるようになるためにも、学校では学べないことが限りなくあります。ヨーロッパでは、まとまった期間のバカンスをとることが非常に大切にされているようですが、これは教育的な意味でも、賢明なことかもしれません。



日米の学校の「夏休み」。どちらにも長所・短所があり、簡単に軍配は上げられません。皆さんの判定は？

子ども達に聞くと「どっちも良かった」と満足げでした。細かく質問してみると、様々な経験ができたことが理由でした。異なった体験、たとえそれが異文化での経験であっても、子どもの持つ旺盛な好奇心のせいでしょうが、子どもにとっては得るものが多かったようです。

佐々先生の「大人の夏休み」。個人的に大賛成です。来年こそ！？

啓明学園 初等学校・中学校・高等学校
国際教育センター

〒196-0002 東京都昭島市拝島町 5-11-15

TEL : 042-541-1003

HP : www.keimei.ac.jp E-mail : kokusai_info@keimei.ac.jp